

# 令和7年度 清水町議会報告会と町民との意見交換会 報告書



清水会場（文化センター）



御影会場（御影公民館）

令和8年3月  
清水町議会

## 目 次

1	開催日時・会場・参加者など	P1
2	周知方法	P1
3	議会報告会	P1
4	町民との意見交換会	P1
5	グループディスカッションのテーマ・進め方	P1
6	出された意見の処理方法	P2
7	意見の結果	P3~17
	○アンケート集計結果	P18~24
	○添付資料（議会報告会配布資料）	



## 1 開催日時・会場・参加者数など

地区	日時	会場	参加者	出席議員	事務局
清水地区	令和8年2月3日(火) ①14:00～15:50	文化センター 1階大集会室	15名	13名	3名
	令和8年2月3日(火) ②19:00～20:30		6名	12名	3名
御影地区	令和8年2月5日(木) ①14:00～15:30	御影公民館 2階講義室	9名	11名	3名
	令和8年2月5日(木) ①14:00～15:30		11名	11名	3名
計			41名		

## 2 周知方法

- ①新聞折り込みチラシ 2回(1月15日、1月31日 道新、勝毎)
- ②開催周知新聞記事(1月20日道新朝刊、1月25日勝毎)
- ③広報しみずお知らせ版(1月15日号)
- ④町ホームページ
- ⑤町内各団体代表者へ案内送付

## 3 議会報告会

議会報告については、令和6年7月以降及び令和7年12月までの議会における議決事項等をまとめた資料を配布しました。(別添 参考資料)

資料配布をもって説明とし、質疑応答は実施しませんでした。

## 4 町民との意見交換会

例年と同様に、全参加者を少人数のグループに分け、町民と議員が設定されたテーマに沿って意見交換を行う「グループディスカッション」を実施しました。

## 5 グループディスカッションのテーマ・進め方

清水・御影それぞれの会場において、町民・議員を合わせた全参加者を3つのグループ(A・B・C)に分け、「議員定数と報酬のあり方」について意見交換していただきました。

例年は3つ程度のテーマ(うち1つは「フリートーク」)を設け、意見交換を行っていますが、今年度は上記テーマに絞って実施しました。

## 6 出された意見の処理方法

意見交換会で出された意見は、議員個々の最終判断の参考資料として、全員協議会においてその内容を共有しました。

## 7 意見の結果

別紙のとおり

○A班 記録者 山本議員

○B班 記録者 中河議員

○C班 記録者 田村議員

## 意見の結果

### 【A 班】

#### ○清水会場（昼） 14:00

##### 1 定数についての意見

###### ○減らしてもいい派

もう少し減らしてもいいのでは  
少数精鋭のほうがいい  
頑張る議員に集中してほしい

###### ○不安の声

議員が減ると声が届かなくなるのでは  
相談相手が減るのでは  
委員会負担が増えて回らなくなるのでは

##### 2 報酬についての意見

活動が見えない今の状態では、単純な報酬アップには納得できない  
ただし、若い人が議員になるには今の額では無理  
生活できる水準でないと担い手が増えない  
減らすなら報酬アップとセットなら理解できる  
定数↓+報酬↑はアリ

##### 3 その他

###### ①議会が活性化しているように見えない

一般質問を見ても、質問に立つ人が半分くらいしかいない  
台本を読んでいるようで、学芸会みたいに感じる  
理事者と議員が事前に答えを知っているように見える  
議論が白熱していない  
もっと本音でぶつかり合う議会になってほしい  
YouTube で見る限り、活発に見えない  
裏で何をしているのか全然伝わらない  
「議会活性化」と言われても実感がない

###### ② 議員が“見えない”・情報が届かない

町の中で議員の姿を見かけない  
普段何をしているか分からない  
委員会活動が見えない  
情報発信が足りない  
文章や形で残して見える化してほしい  
いちまるの問題も、今日初めて詳しく知った  
こうした身近な情報こそ知りたい

###### ③ まず身近な課題解決を優先してほしい

空き店舗・空き地問題  
いちまる跡地  
芽室のダイイチに町民が流れている現状  
商店・生活環境の問題  
「定数や報酬の議論より、こういう現場課題を先に解決してほしい」

###### ④ 現場に出てほしい

議員全員で現場を見に行してほしい  
工場・店舗・スーパー・空き家など視察してほしい  
現場を見ないと課題は分からない  
デスク上の議論だけではだめ

- ⑤ 若手・女性など多様な担い手を増やしてほしい
  - 今の報酬では若い人は出られない
  - 退職者や余裕のある人しかできない
  - 若い世代・女性にも出てほしい
  - 日頃から声かけや人材発掘が必要（浦幌のように）
- ⑥ 意見交換会の運営への要望
  - もっと少人数で話せる場がほしい
  - トーク形式の方が話しやすい
  - 仕切り・進行を工夫してほしい
  - もっと気軽に参加できる雰囲気がいい

## ○清水会場（夜） 19:00

### 1 議員定数についての意見

減らさなくていい

現状維持でいい

削減の必要性を感じない

#### 【理由・根拠として出た声】

清水町は「無投票ではない」＝なり手不足ではない

3期連続選挙になっている＝一定の競争性がある

人口は周辺町村より多い（十勝で上位）

他町の“無投票対策”と同じ土俵で削減するのは違う

町民から「議員が多すぎる」という声は聞いたことがない

#### 【具体的な発言趣旨】

「削減は流行りでやっているだけでは？」

「町民が求めている話じゃない」

「次の選挙を見てからでも遅くない」

「13人は妥当、根拠なく減らすのはおかしい」

「多様性を保つには人数は必要」

### 2 議員報酬についての意見

今の額では少なすぎる

23万8千円は中途半端

もっと思い切って上げるべき

#### 【理由・背景】

専業では生活できない

若い世代・子育て世代が立候補できない

会社員は辞めて出られない金額

国保・年金・活動経費は自腹

実質手取りが低い

冠婚葬祭・地域活動の出費も多い

#### 【具体的な声】

「これじゃ食べていけない」

「30代40代は無理」

「本気でなり手を増やすなら生活できる額に」

「十勝平均レベルまでは上げて町民は納得する」

「中途半端に上げるくらいなら大きく上げた方がいい」

「政務調査費など活動費をもっと充実させる方法もある」

### 3 その他

#### ① 議会運営・制度面への提案

##### 【出た提案・改善案】

次の選挙結果を見てから判断する

研修や自己研鑽をもっとしてほしい

議員の勉強不足を感じる

政務調査費の充実

若い世代が挑戦しやすい制度設計

マイクが聞こえづらい（音響改善）

## ○御影会場（昼） 14:00

### 1 議員定数（人数）について

現在の13人程度は妥当  
10～13人くらいが適正  
人口減＝単純に減らせばいいわけではない  
減らすと担い手不足・無投票が増える  
女性や若い世代など多様性が必要

### 2 議員報酬について

現状維持でもよい  
もう少し上げてよい  
生活できない額では若い人が出られない  
責任ある仕事なら生活給に近づけるべき  
安すぎると人材が集まらない

### 3 その他

- ① 投票・手続き・運営への不信感  
投票箱の確認や管理がいい加減に見える  
チェック体制が形式的で信用できない  
公平性・厳密さが足りない  
こんな管理ならやらない方がいいのではないか  
「ちゃんとやっている」という安心感がない
- ② 会議日程・説明会の分かりにくさ  
町名変更説明会など日程が重なり混乱している  
スケジュール周知が不足  
参加しづらい
- ③ 報酬が出ている以上「仕事・職業」  
片手間感覚では困る  
プロとして責任を持って活動してほしい
- ④ どんな議員活動をしてほしいか（具体像）  
除雪など生活の困りごと対応  
高齢者・障がい者支援  
細かな相談への対応  
地域を歩き、住民の声を聞く  
役場と住民をつなぐ調整役  
目立つことより地道な働き
- ⑤ 地域の現実課題  
高齢世帯が多く、除雪や日常生活が大変  
頼れる人がいない家庭が増えている  
空き家や独居高齢者問題がある⑧ 行政運営・町の体質への不満  
住民の声の上に届きにくい  
新しいことが進みにくい  
上から決める風土がある  
もっと現場目線でやってほしい

## ○御影会場（夜）19：00

### 1 議員定数についての意見

#### 【懸念】

減らすと町民の声が届かなくなる  
多様な意見が減る  
11人は少なく感じる  
13人は多いとは思わない  
将来のまちづくりに支障が出るのでは

### 2 議員報酬についての意見

定数と報酬は本来「別物」  
報酬は働いた分の対価  
今の報酬が安いのか妥当なのか分からない  
議員の仕事量や大変さが見えない  
仕事内容をもっと説明してほしい  
若い人・女性・現役世代が出やすくするには報酬アップは必要  
使命感だけでは続かない  
上げること自体は反対しない  
むしろ増額してもよいのでは  
町民が納得できる説明が必要  
責任の重さも評価に含めるべき  
「出席時間の積み上げ」だけの試算では不十分  
報酬は上げてよい  
定数は議員の在り方・働き方を見て判断すべき  
定数そのまま報酬を上げてよい  
1～2名減らして、その分しっかり働くなら報酬を上げるのも理解できる  
頑張ってくれるなら報酬増は賛成

### 3 その他

#### ① 町名変更・議会議論全体への不満

議会で活発な議論が見えない  
何が問題で、何が課題なのか町民に伝わっていない  
説明不足で判断材料がない  
真剣に取り組んでいるように見えない  
形だけの議論に見える  
問題点すら町民が知らされていないのはおかしい

#### ② 議会・議員の姿勢への指摘

批判やチェック機能が弱い  
議論の中身が薄い  
議員の資質・資格・責任をもっと考えるべき  
議会としての統一見解やルールが必要  
まず議会としての“規範づくり”を優先すべき  
議会基本条例を制定し、ルールを明確にして信頼できる議会にしてほしい

#### ③ 議会運営への要望

活動をもっと発信してほしい  
見える化してほしい  
真摯な姿勢で取り組んでほしい  
信頼される議会になってほしい  
議場で態度の悪い議員がいるので改善してほしい（2名から指摘）

## 【B 班】

### ①議員定数について

#### ◆ 清水会場

##### 削減に賛成意見

- ・人口9千人を切ったら10人でもよい。
- ・3～4人減らしてもよい。
- ・2削減賛成 2人。
- ・議員の意見を聞いてみたい。

##### 「議員の意見」

削減賛成。活性化、ITの時代に若い人が出てほしい。

議員2人削減でその分を報酬増に当てる。選挙の時に議員削減の声多かった。最近では1減でもよい。

##### 削減に反対意見

- ・資料5でやってもらえるなら削減なく、今の定数でよい。
- ・委員会活動は大事だと思う。町に影響を及ぼす。議員は多いほうが意見を出せる。
- ・今のままでよい。削減したら、いろいろな人の意見が出づらくなる。

##### 「議員の意見」

町の規模からいって2減はどうか。削りすぎでないか。

議員を減らすと町民の意見を上げづらくなる。多くの地域、年代、男女がいて多くの意見を町に届けられる。

- ・現状維持

#### ◆ 御影会場

##### 削減に賛成意見

- ・2名減で少数精鋭で。
- ・2名減でも委員会活動5名ずつでもやれる。
- ・2名減で委員会を1つにしてもいい。
- ・2名減でもインターネット時代になるから、町民網羅できる。
- ・人口減っていくので、少し減らして、議員になった人がその分一生懸命やる。
- ・議員になった時、町民から言われた。議員が何をやっているか分からない。
- ・議員になってから、最小の人数で歳代の仕事をすれば支障ないのではないかと。

##### 削減に反対意見

- ・削減に意味はない。今までを維持。考えが広くなならない。かえって増やした方がよい。
- ・2名は減らしすぎ。1名でよい。
- ・減らすと町民の多くの意見が集めづらい。1人で広い地域を回って町民の意見を集めるのは大変だし、多くの世代の意見を聞くのは難しい。
- ・減らすべきでない。自分のことを聞いてくれる議員がいれば、意見を町に反映できる。多くいるときいてもらえる。議員の得意分野もあると思う。
- ・町民の意見を拾うには多いほうが良い。少なくなると、議員に会う機会が少なくなる。近い所にいると議員との接点が多くなる。

## ②議員報酬について

### ◆清水会場

#### 増額に賛成意見

- ・議員活動するのに必要。
- ・若い人が入りやすいので、増額は危険。兼職ができる範囲で。
- ・基本条例を作り報酬を考えきめる。
- ・若い人がでて生活確保ができるように。
- ・議員を若返らせるには、一定の報酬が必要である。
- ・議員定数維持でも増額に賛成。議員削減した分を報酬で引き上げ—2人
- ・議員活動するのに必要、体系化する。
- ・若い人の生活を確保する。段階的に上げ、町民の理解を得る。
- ・若い人が入りやすいので大きな増額は危険、兼職できる範囲で。
- ・今の時代に合わないなら増額。

#### 増額に反対

- ・現状維持—2人

### ◆御影会場

#### 増額に賛成意見

- ・賛成—2人
- ・賛成だが上げ幅をどうするか、定期的に改定すればよい。
- ・報酬審議会で4年後にまた話し合いをする。
- ・増やして当たり前。活動すればお金がかかる。
- ・この時期にドンと上げてほしい。(長い期間あげていないのだから)
- ・今後、他町も上げてくると、他町より本町は低くなる。
- ・報酬を上げないと若い人は来ない。—2人。議員の日々を公開する。
- ・定数削減でその分を報酬へ回す。

#### 増額に反対

- ・町民は多く上げるのではなく、現状でいいと思う。
- ・こういう時代だから、やり繰りで乗り越えてほしい。

#### その他の意見

- ・議員の仕事は分からない。普通に暮らせる報酬であるか、生活ができなければならぬ

い

## 【C 班】

### ○総括

#### ①議員定数について

##### 削減に賛成意見（容認意見）

- ・改革の覚悟と身を削る姿勢

人口減少が進む町の実態に合わせ、議会自らが定数を減らすことで、町民に対して「身を削る改革の覚悟」を示すべき。

- ・責任感と活動の質の向上

人数を絞ることで、一人ひとりの発言機会や職責を重くし、意識の変化を促して議会を活性化させるべき。

- ・活動実態への厳しい指摘

「意見を言わない、議論に参加しない」というのが今のスタイルであれば、5名程度減らしても良いのではないかという批判的な声もあった。

- ・活動の「見える化」

定数を絞ることで、個々の議員の活動や発言が町民からより明確に評価されるようになる。

##### 削減に反対意見（慎重意見）

- ・地域代表性と「空白」への危機感

定数が減ることで、特に農村部からの代表者がいなくなり、地域の小さな課題が議会に届かない「空白」が生まれることを強く危惧。

- ・チェック機能の弱体化

社会課題が複雑化する中で議員を減らせば、行政に対する監視（チェック）の目が物理的に届かなくなり、執行部の言いなりになるリスクがある。

- ・多様な意見の遮断

当選ラインが上がることで、特定の組織基盤を持たない若手・女性・新人が立候補するハードルが高くなり、議会の多様性が失われる。

- ・住民支援機能の低下

困っている人に寄り添い、直接助ける「実務的支援（御用聞き）」を維持するには物理的な人数が必要であり、削減は住民対応の低下を招く。

#### ②議員報酬について

##### 増額に賛成意見

- ・「生活できる報酬」による参入促進

働き盛りの世代が生活の不安なく町政に専念（専門化）できるよう、報酬を適正化することが優秀な人材確保や成り手不足解消への投資となる。

- ・活動実態への正当評価

年間105日相当の拘束時間や日常の調査研究、住民相談に費やす時間を考慮すれば、現状の報酬額は労働実態に見合っていない。

- ・不均衡の是正

過去の財政難時に削減されたままの報酬を、職員の給与が戻っている現状に合わせて適正な水準に戻すべき。

- ・次世代への将来投資

自分の子供たちなど将来の世代が議員という職に挑戦できる魅力ある報酬体系を、長いスパンで整えてほしい。

##### 増額に反対意見

- ・生活実感との乖離と順序

町民の生活が厳しい中で議員の報酬だけを上げる議論には納得が得られない。まずは議員が成果を出し、資質の向上を町民に実感させるのが先。

- ・「抱き合わせ」への不信感

「人数を減らすから報酬を上げる」という論理は、議会費総額を維持するための自己保身に見え、町民のための改革とは受け取れない。

- ・客観的な比較資料の不足

感情論ではなく、他町村の財政状況や報酬額と比較できる、町民が納得できる具体的な資料を提示すべき。

### ③その他（議会のあり方・対話の姿勢）

- ・「出やすい環境づくり」の優先

定数や報酬の議論よりも、知識や専門性を持った働き盛りの世代が立候補しやすい環境（ナイター議会の検討や制度のPR等）を整えることを最優先すべき。

- ・議員の資質に対する厳しい指摘

議会は町民の意見を集約し判断する場であり、「議員になってから勉強する」のでは遅すぎる。事前に知識や専門性を備えた人材が議員になれる環境が必要。

- ・活動の「見える化」と透明性

議員が普段何をしているか見えない。常任委員会の公開や活動報告の質向上を通じて、透明性を徹底し、執行部の言いなりでない姿を示すべき。

- ・町民参加の希薄さと対話の姿勢

現状の議会は町民の関心が低すぎる。まずは町民が関心を持てる議会にすべきであり、議員側も町民の声を真摯に受け止める対話の姿勢を磨く必要がある。

- ・現場・地域との連携強化

民生委員など地域の課題を抱えている現場との意見交換を密にし、定数が減ったとしても御影地区等の声が埋没しない丁寧な対話の仕組みを継続してほしい。

## ○清水会場（昼） 14:00

### ①議員定数について

#### 削減に賛成意見

- ・町民の厳しい視線:

「議員はそんなに役立っていない」「期待していない」という感情が町民の間に蔓延しており、その民意を汲み取るなら削減は当然。

- ・意識改革の強制装置

人数を減らせば一人ひとりの仕事が見えるようになり、職責が増えることで「意識の変化」が生まれ、結果として議会が活性化する。

- ・人口減少への順応

平成 17 年から改正されていない定数を、現状の人口減少（議員一人あたりの人口増）に合わせて適正化するのには行政改革の流れとして自然である。

#### 削減に反対意見

- ・課題の複雑化への逆行

少子高齢化で町に様々な課題が発生している今、相談先やチェック機能を減らすのは、最終的に「町民が一番困る」ことになる。

- ・地域・分野の代表性の喪失

農村部からの意見が届かなくなり、町場出身者ばかりになることで、地域バランスが偏るリスクが非常に高い。

- ・新人参入への高い壁

当選に必要な票数が上がりハードルが高まると、若手や女性、特定の組織背景を持たない人が「気楽に挑戦できる状況」ではなくなる。

- ・現状の肯定

無投票にならずに選挙が行われている現状は、多様性が保たれている証であり、あえて選択肢（定数）を狭める必要はない。定数が減って当選に必要な票数が上がると、新人や若手、女性が挑戦しづらくなる懸念がある。

### ②議員報酬について

#### 増額に賛成意見

- ・「担い手」を確保するための投資

若い世代や働き盛りの層が副業を持たずに議員活動に専念できるよう、生活を保障できる報酬を用意すべき。

- ・活動量への正当な対価

調査や住民相談を含めた実働日数（年間 105 日）や、他自治体（浦幌方式など）との比較に基づいた算定根拠は妥当。

#### 増額に反対意見

- ・「抱き合わせ」への不信感

「報酬を上げる代わりに定数を減らす」という理屈は、結局議会コストを維持するだけであり、身を削る改革には見えない。

- ・順序の欠如

議員がどのような成果を上げているか実感できない中で、自らの給料を上げる議論が先行することへの違和感が強い。

### ③その他

- ・資質の定義の曖昧さ

「資質の向上」という言葉が踊るが、具体的に何をどう向上させるのか、研修の義務化などの仕組みがセットでなければ信用できない。

- ・議論のプロセスの透明性

- ・結論を一本化した案だけを示すのではなく、複数の案それぞれのメリット・デメリットを提示し、町民に判断材料を提供してほしい。

- ・町民への説明姿勢

議会側は「行政の方向」を向くのではなく、しっかりと「町民の方向」を向いて、丁

寧な説明責任を果たすべき。

## ○清水会場（夜）19:00

### ①議員定数について

#### 削減に賛成意見

- ・発言機会の最大化  
人数を絞ることで本会議や委員会での議論を深め、一人ひとりのパフォーマンスを最大化させるべきである。
- ・議会改革の象徴的姿勢  
人口減少という「町の危機感」を共有するならば、議会自らが定数削減という形でその覚悟を示す必要がある。
- ・議員活動の見える化  
定数を絞ることで、個々の議員の活動や発言が町民からより明確に評価されるようになる。
- ・効率化と責任感の向上  
議員一人ひとりの発言機会を確保し、議論の密度を高めるためには、11名程度への削減が妥当である。

#### 削減に反対意見

- ・「御用聞き」機能の低下  
困っている人を直接助け、最後まで寄り添う「実務的支援」を行うには、物理的な人数が必要であり、削減はサービス低下を招く。
- ・住民対応の質の低下  
社会課題が複雑化する中で定数を減らすと、住民一人ひとりへのきめ細かな対応や相談業務が疎かになる懸念がある。
- ・行政監視機能の空白  
事務量が増える行政に対し、議員数が減れば「チェックの目」が物理的に届かなくなる分野が生じる。
- ・多様な属性の排除  
定数が減り当選ラインが上がることで、組織票を持たない若手・女性や、特定の地域（農村部など）の代表者が立候補しづらくなる。
- ・情報公開の懸念  
審議の途中経過の扱いなど、議員間のリテラシーが低いまま人数を減らすと、さらに情報管理や監視能力に歪みが出る。

### ②議員報酬について

#### 増額に賛成意見

- ・議員をボランティアや名誉職ではなく、責任ある「職業」としての位置づけ  
働き盛りの世代が家業や仕事を犠牲にせず、町政に専念できる環境を整えるためには、報酬の引き上げが必要。
- ・プロフェッショナル化への期待  
議員を「名誉職」から脱却させ、政策提言能力を持つ専門家として機能させるためには、適切な報酬による環境整備が不可欠。そのために生活できる報酬を支払うことで、優秀な人材確保へと繋がる。
- ・十勝最低水準の是正  
18町村中15番目という現状の低水準は、健全な議会運営を妨げている要因であり、適正化が必要。
- ・活動量への正当評価  
年間105日相当の拘束時間や日常の調査活動を考慮すれば、現状の報酬額は労働実態に見合っていない。

### 増額に反対意見

- ・成果主義の導入  
定数を減らす理由が「質を上げるため」であるなら、その質が上がったことを見届けてから報酬を議論すべき。
- ・町民生活との乖離  
町民の賃金が上がらない中で、公金（税金）を自らの給料アップに充てることには感情的な納得が得られない。
- ・削減とのセット論への不審  
定数を減らして一人あたりの報酬を増やすというやり方は、町全体のコストカットになっておらず、町民の納得を得にくい。

### ③その他

- ・分断構造の解消  
「長派・反長派」といった不毛な派閥構造に縛られず、町民の負託を受けた「合議体」として建設的に機能してほしい。
- ・基礎情報の提供  
議会や議員が何をしているか、まずは基礎的な活動実態（三つの危機など）をもっと町民に周知すべき。

○御影会場（昼） 14:00

①議員定数について

削減に賛成意見

- ・効率化への期待  
人数を絞ることで意思決定を迅速にし、一人ひとりの発言の重みを増すべき。
- ・削減への肯定的判断  
基本的に定数を削減することに賛成。
- ・身を削る姿勢  
人口減少が進む町の実態に合わせ、議会自らが定数を減らすことで、町民に対して「改革の覚悟」を示すべき。
- ・活動実態への厳しい指摘  
「意見を言わない」「議論に参加しない」というのが今の町議会のスタイルであるならば、5名くらい減らしても良いのではないかと。
- ・議場のあり方  
議場は議員にとって良くも悪くもパフォーマンスの場であるべき。ただ座っているだけの人は何をやっているのか、という疑問。
- ・「声を拾う」という根拠への疑念  
議会側は「声を拾うために人数が必要」と言うが、現実には「自分の声が拾われたことがない」と感じている町民もおり、人数維持の根拠としては弱い。

削減に反対意見

- ・地域代表性の喪失への強い危惧  
御影地区や農村部から議員がいなくなれば、地域の切実な声や小さな課題が町政に届かなくなるのではないかと不安が非常に強い。
- ・チェック機能の形骸化  
行政の仕事が複雑化する中で議員を減らせば、監視の目が届かなくなり、行政の言いなりになるリスクがある。
- ・住民との距離の拡大  
議員一人が担当する住民数が増えることで、物理的に対話の機会が減り、議会がさらに「遠い存在」になってしまう。
- ・多様な意見の遮断  
数が減ることで、若手や女性など、組織基盤のない新しい人材が立候補するハードルが高くなり、議会の多様性が失われる。
- ・課題の多様化への懸念

現代は課題が多様化しており、様々な悩みを抱える人と向き合うためには人数を減らすべきではない。削減は良くない方向であり、むしろ女性や若者を参入させるべき。

- ・人口割の歴史的観点  
議員一人あたりの人口を過去（人口が多かった時代）と比較すると、現状の13人という定数は、かつての水準とほぼ同じであり、過剰ではないという分析的な指摘もあった。

②議員報酬について

増額に賛成意見

- ・専業としての自立支援  
若い世代や働き盛りの層が、生活の不安なく町政に100%注力できる環境を作るための「必要経費」として捉えるべき。
- ・活動実態への評価  
住民相談や調査研究に費やす膨大な時間を考慮すれば、現在の報酬は労働実態に見合っておらず、適正化は妥当。
- ・優秀な人材の確保  
報酬を上げることで、専門知識を持った多様な人材が立候補しやすい土壌を整えるべき。
- ・若者の参入支援（成り手対策）  
若い世代の参入を促すためには報酬を上げなければならない、これを定数削減とセッ

- ト（抱き合わせ）を進めるべき。
- ・生活できる報酬の設定  
現状の報酬は「とんでもなく低い」。若者が報酬だけで生活できる金額にしなければ誰も議員をやらない。金額の妥当性は提案通りでよい。
- ・物価高騰への対応  
長年据え置かれている間に物価が高騰しており、増額しなければ若者の参入ハードルはさらに高くなる。
- ・名誉職からの脱却  
「名誉職」ではなく「生活の糧を得る立場」に変えるべき。稼働日数を増やし、報酬を高額にして、めいっぱい働いてもらう形が理想。
- ・他自治体の好事例  
夜間に議会を開会し、高額な日当（費用弁償）を出すことで多様な人材の参入を図っている他自治体の例も参考にすべき。

### 増額に反対意見

- ・生活実感との乖離  
町民の生活が苦しい中で、議員の報酬だけを上げる議論には到底納得がいかない。
- ・「質」の証明が先決  
報酬を上げるのであれば、まずは今の議員が報酬に見合うだけの活動をしているのか、その成果を明確に示すべき。
- ・稼働率の算出の難しさ  
議員はフルタイムではないため、実働日数や稼働率に基づいた適切な配分を算出することの難しさを指摘。

### ③その他

- ・町民参加の希薄さへの指摘  
現状の町議会は町民の参加が非常に少なく、まずは町民が関心を持てるような議会にすることが先決であるという厳しい指摘あり。
- ・資質のルール化への要望  
議員の能力向上を個人の努力に任せるのではなく、議会としてしっかりとルールを定め、質を担保する形をとってほしい。
- ・「出やすい環境づくり」の優先  
報酬や定数の議論よりも、知識や専門性、問題意識を持った働き盛りの世代が立候補しやすい環境を整えることを最優先すべき。
- ・議員の資質と事前の専門性  
議会は町民の意見を集約して判断する場。「議員になってから勉強する」のは無理であり、知識や専門性を持った人が議員になるという側面をもつ環境づくりが必要。
- ・活動の「見える化」と透明性  
個々の活動が見えない。二元代表制の役割を理解し、深く議論しなければ執行部の言いなりになってしまう。活動日数を増やし、勉強する時間を設けて活動量を増やすべきだ。
- ・通年議会の検討  
いつでも活動ができるよう、通年議会の導入も検討すべき。

○御影会場（夜） 19:00

①議員定数について

**削減に賛成意見（容認意見）**

- ・選挙による担保  
4年に一度の選挙で審判を仰ぐ以上、人数が多少減ったとしても、その中で町民の声を拾い上げることは可能。
- ・適正数の模索  
現状の委員会構成や議会運営に支障が出ない範囲であれば、何人が妥当かという議論の中で削減を検討することは理解。

**削減に反対意見（慎重意見）**

- ・地域の空白への危機感  
定数を削減すれば、御影のような地域から選出される議員がいなくなる可能性が高まり、地域の声が届かない「空白」を生んでしまう。
- ・民主主義の守り手  
削減は効率化かもしれないが、町内の多様な意見を反映させるという「民主主義の根幹」をどう守るのかという視点が欠けている。
- ・住民支援機能の低下  
現状でも住民の不安や不満を拾い上げる力が弱まってきていると感じる。議員削減は、その傾向に拍車をかけ、悩みを拾えなくなるリスクがある。
- ・他組織との連携不足  
一人ひとりの不安を拾い上げるには、議員だけでなく民生委員などの役割も大きい。議員を減らす議論の前に、こうした現場との連携が不十分。

②議員報酬について

**増額に賛成意見**

- ・生活保障と現役世代の参入  
40～50歳代の働き盛りにとって、現状の報酬では生活が成り立たない。もっと報酬を上げ、専業として町政に全力で取り組める環境を作るべき。
- ・将来への投資  
自分の子供たちなどの将来を考えたとき、次世代の若者が議員という職に挑戦できる長いスパンで魅力ある報酬体系を整えてほしい。
- ・不均衡の是正  
かつての財政健全化政策（行財政改革）の際、職員も議員も耐えて報酬を削った。職員の給与は戻っているが、議員報酬は据え置かれたままであり、これを元に戻す（適正化する）のは当然の権利。
- ・活動実態への正当評価  
年間48日という日常活動日数の積算は少なすぎるのではないか。実際にはもっと活動しているはずであり、その実態に見合うだけの増額は問題ない。最終的には選挙で個々が審判を受けるのだから、堂々と上げれば良い。

**増額に反対意見**

- ・比較の必要性  
感情的に「上げる」と言うだけでなく、近隣町村の財政状況や報酬額を一覧に落とし、町民が客観的に比較・納得できる資料を示すべき。

③その他（議会のあり方・対話の姿勢）

- ・現場との意見交換  
議員は、民生委員など地域の課題を最前線で抱えている現場の人間ともっと積極的に意見交換をする場を持つべき。